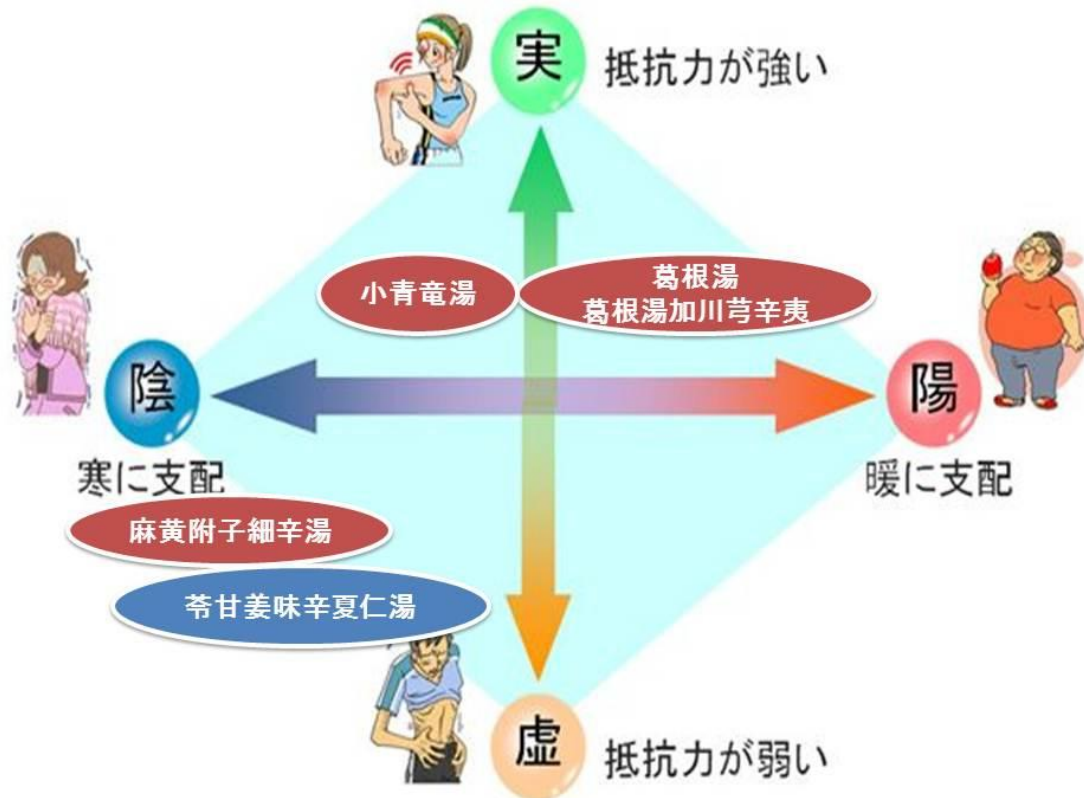


## 1. アレルギー性鼻炎に対する漢方薬の使い分け



- 急性鼻炎またはアレルギー性鼻炎で水様性鼻汁がみられれば**小青龍湯**(ショウセイリュウトウ)、胃腸が弱ければ**苓甘姜味辛夏仁湯** (リョウカンキョウミシニングェニントウ)
- 身体を温めて治すのは**麻黄附子細辛湯** (マオウブシサイシントウ)
- 鼻閉タイプには**葛根湯** (カクコントウ) がよい。効果が弱い場合には**葛根湯加川芎辛夷** (カクコントウカセンキュウシンイ)

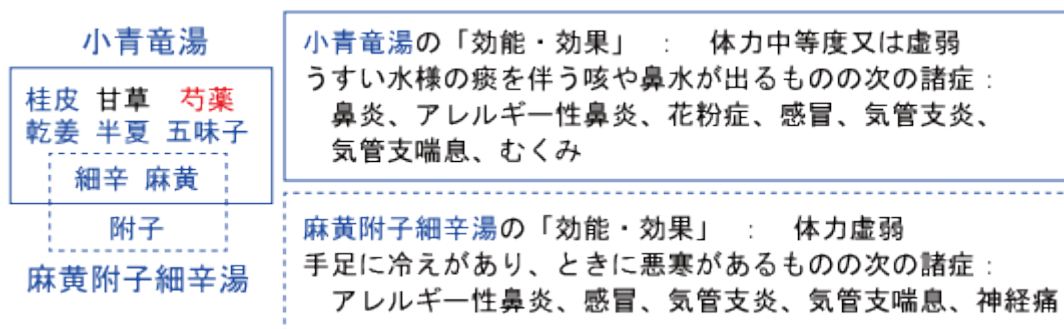
## 2. 水様性鼻水を伴う初期の鼻炎に、小青竜湯(ショウセイリュウトウ)

**小青竜湯**(ショウセイリュウトウ)は、初期の鼻炎の頻用処方です。透明な鼻水、くしゃみ、涙目、鼻づまりが本方を用いる指標です。

小青竜湯の主な配合生薬は、麻黄と桂皮(ケイヒ)です。処方名の「青竜」は麻黄を意味しています。さらに水様性鼻汁は、体が冷えているためだと漢方医学では考えます。そのため本方には、体を温める細辛(サイシン)と乾姜(カンキョウ)という散寒薬(サンカンヤク)が含まれています。

麻黄は、鼻粘膜の血管を収縮させ鼻づまりを軽減します。桂皮と細辛は、抗アレルギー作用のあることが明らかにされた生薬です。

なお、体の冷えが顕著な人の初期の鼻水には散寒薬の附子(ブシ)を含む**麻黄附子細辛湯**(マオウブシサイシントウ)が適します。



### 3. 感冒の亜急性期の鼻閉に、葛根湯加川芎辛夷(カクコントウカセンキュウシンイ)

**葛根湯加川芎辛夷**(カクコントウカセンキュウシンイ)は、感冒に続く鼻汁・鼻づまりに用いられる処方です。鼻汁は小青竜湯より、粘りのある鼻汁に適します。

本方は、感冒初期に用いる**葛根湯**に頭痛を軽快する川芎(センキュウ)と鼻づまりに用いる辛夷(シンイ)を加えた処方です。

### 4. 慢性期の鼻閉と粘る鼻汁に、辛夷清肺湯(シンイセイハイトウ)

**辛夷清肺湯**(シンイセイハイトウ)は、膿粘性の鼻汁や鼻づまりを伴う亜急性・慢性期の鼻炎や副鼻腔炎(蓄膿症)に用いられる処方です。さらに、粘稠の痰が「からむ」咳や咽の痛みにも用いられます。

本方の適応病態は、鼻腔の炎症で熱感を伴う熱証(ネツショウ)傾向であり、これを冷やす目的で、石膏(セッコウ)、知母(チモ)、黄ゴン(オウゴン)、山梔子(サンシシ)のような清熱薬(セイネツヤク)が含まれています。この点で、小青竜湯や**葛根湯加川芎辛夷**と適応病態が異なります。

### 5. 鼻水・鼻閉に用いる3処方の使いわけ

鼻汁と鼻づまりの治療では、

- ・初期の水様性鼻汁には、**小青竜湯**
- ・慢性期の粘稠性の鼻汁には、**辛夷清肺湯**

を基本にして、経過や鼻汁が中間の病態に**葛根湯加川芎辛夷**が用いられます。

このような使いわけは、配合生薬の種類と薬能によるのです。漢方医療はこのようなことを考えて適切は処方を選んでいきます。

